

福 井 県 医 師 会

だより

第690号 平成30年(2018)12月



烈風 福井市 石黒 信彦

表紙写真説明：烈風

福井市 石黒 信彦

白山では10月中旬にもなると初雪が見られ、11月には根雪となる。悪天候が一段落した快晴の朝に今シーズン最後の白山登山を行った。御前峰の稜線には激しい北風にえぐられたシュカブラが沢山出来ており、先日来の烈風の凄まじさを物語っていた。

醫 縫 録

災害・救急医療のこれから

災害・救急医療担当理事 千葉直樹



昨年7月より、福井県医師会、災害・救急医療担当理事を拝命いたしました。

この1年間は、第7次医療計画策定の最終段階の時期でもありました。勉強をしながら、つとめさせていただいております。

本稿が印刷されている頃には終了していますが、今年は県内では福井国体があり、また、来年は国内でラグビーワールドカップ、再来年は東京オリンピックと、大きなイベントが予定されています。このため、国内外を問わず数多くの人が会場に訪れることが予想され、救急医療については、AEDの普及からテロ対策まで、幅広く考えられています。

まず、AEDの普及ですが、福井県内では平成29年10月1日時点で1,682台、対前年度比125台増、とくにコンビニエンスストアへの設置が進んでいます。この1年間では、通常の講習会の他、国体に向けて多数のボランティア向けの講習会等も行われていますが、よりいっそう県民への啓蒙が望まれます。

次に、テロ対策ですが、現在、全世界では年1万件以上のテロが発生しており、いまだ減少傾向にはありません。日本ではテロは少ないと考えられがちですが、化学剤テロの代表的な例として、オウム真理教の例があげられます。テロが発生した場合、医療機関へは多数の傷病者が訪れると考えられます。その際、傷病者の中にテロ組織の実行犯がいるということ認識しながら診療をする必要があります。テロは発生しないようにすることがまず必要ですが、発生したときにどのようにすればよいか、東京・大阪など大都市圏だけではなく、全国の医師が基礎的な知識を持って対処する必要があると考えられます。

また、昨今の気象ですが、地球温暖化現象との関連が指摘されており、災害が増加してきているように思われます。また、東日本大震災以降、震度6以上の大地震も全国で頻発しています。これ

らに対して、医師会では、JMAT（日本医師会災害医療チーム）の組織化ということが大きな議案としてあげられております。

特に今年は7月に未曾有の西日本豪雨災害が発生し、大災害となりました。その前後に、大阪府北部地震（正式名称は未定）、間髪を置かず、台風21号による被害、北海道胆振東部地震も発生しました。今後も、南海トラフ巨大地震、首都直下地震のみならず、未知の断層による大地震など、大規模災害の発生が予想されています。これに加え、超高齢化社会の到来があり、災害医療にも大きな影響があることが予想されています。東日本大震災において、避難のため移動中に死亡した事例が多数発生したことから、普段より在宅の患者・要援護者の把握等、準備が必要と考えられます。

災害が発生した場合、DMATが到着するまでは、まず地元の医師・介護関係者が被災者の医療・介護を担い、その後のJMAT活動は被災地の医師会と全国の医師会との協働で行う、活動は地域医師会が中心となって行うということなどが考えられています。

また、災害時の医療救護活動に際しては、一自治体のみの被害にとどまらず、広範囲の地域に被害が及ぶことも想定され、近隣の府県との協力が必要と考えられます。さらに、医師会では、歯科医師会・薬剤師会・看護協会等との連携体制をとる必要があると考えられますので、今後も検討が必要になってくるものと思われます。

今後、災害救急医療という面では、これまでの常識では通用しないような困難も予想されます。今後とも、ご指導をいただきながら、対策を考え、活動を継続していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。